

尾州産地の現況と課題

全国地場産業振興センター協議会会長

一宮市長
谷 一夫

1.産地の現状

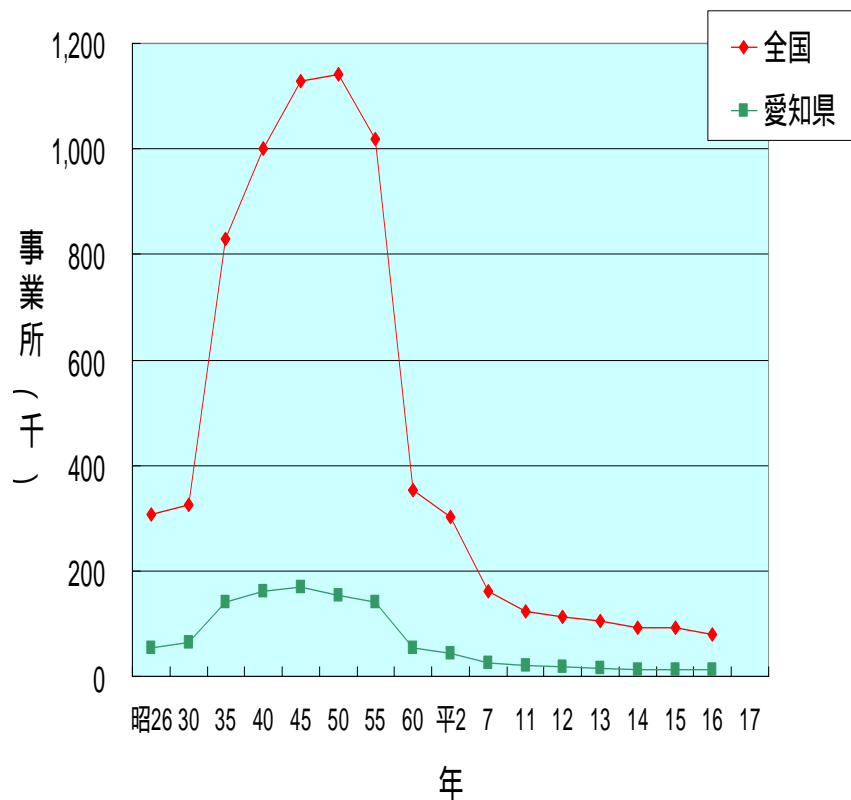
(1)競争環境、消費流通構造の変化に伴う産地の現況

尾州産地の特性

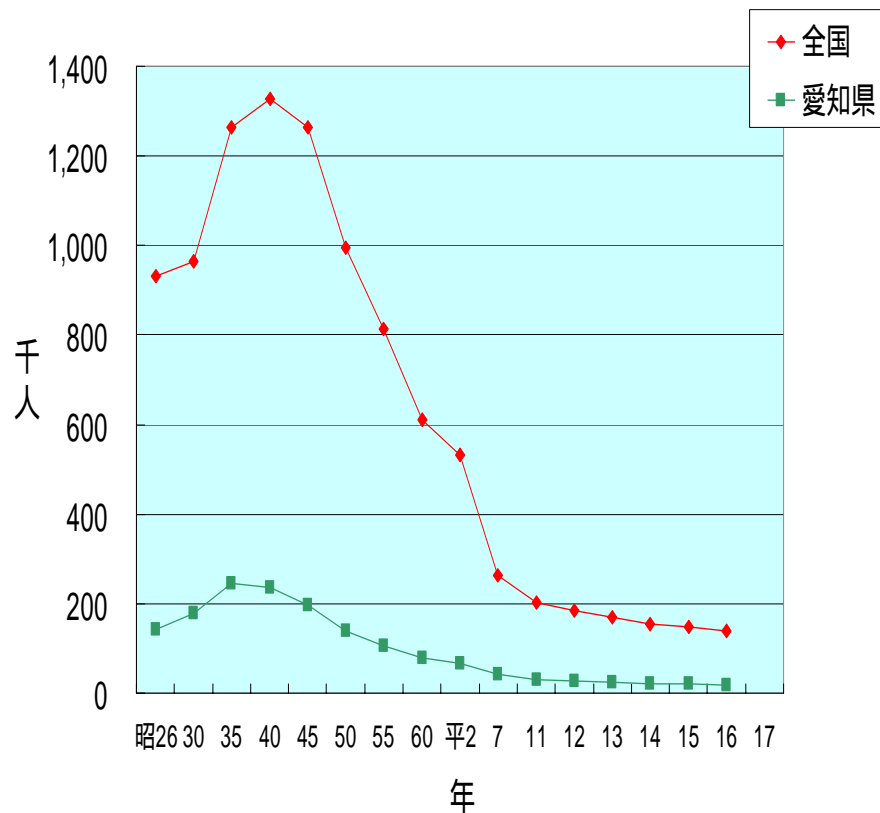
工業統計から見た変化

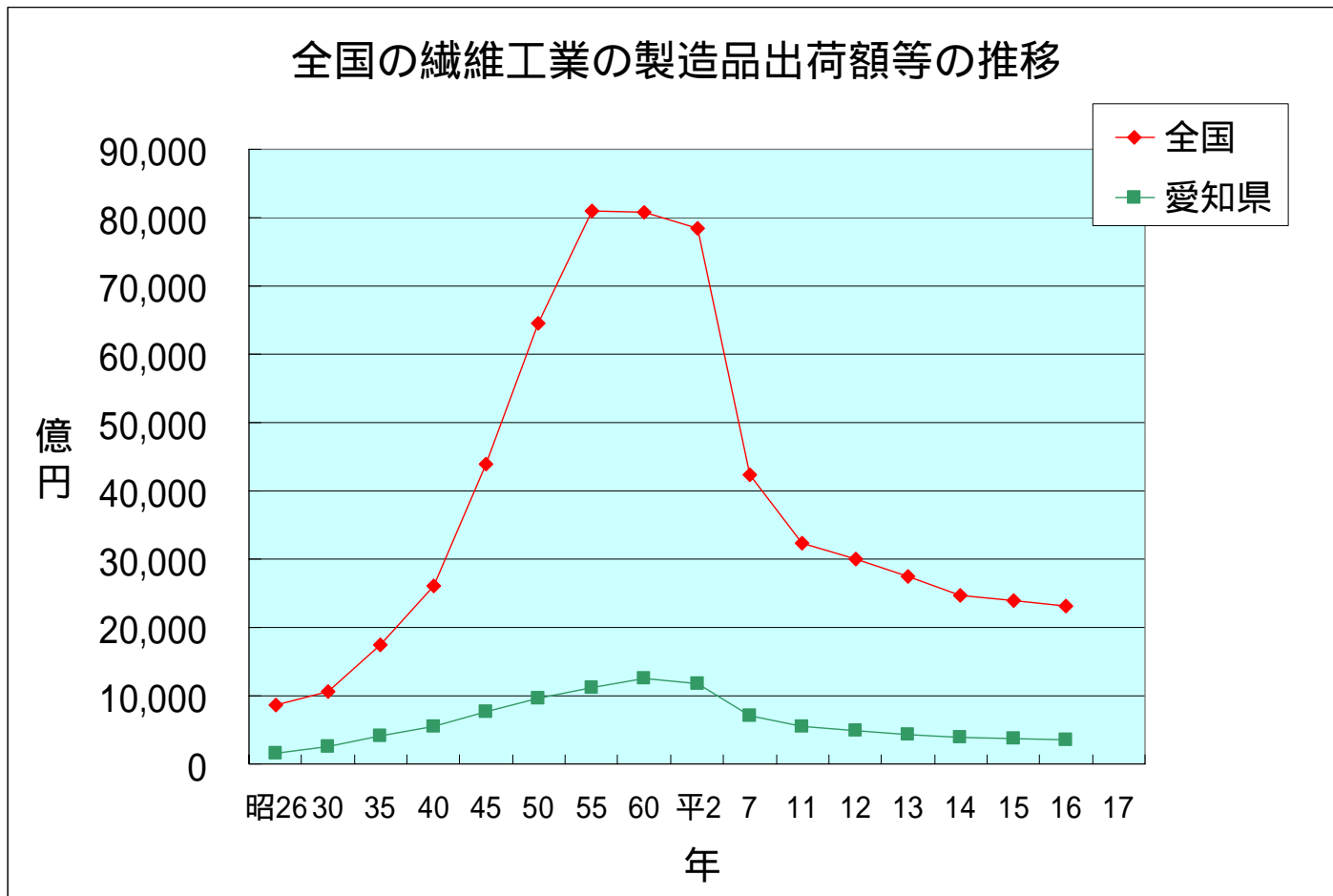
グラフ 1 - 1

全国の繊維工業の事業所数の推移



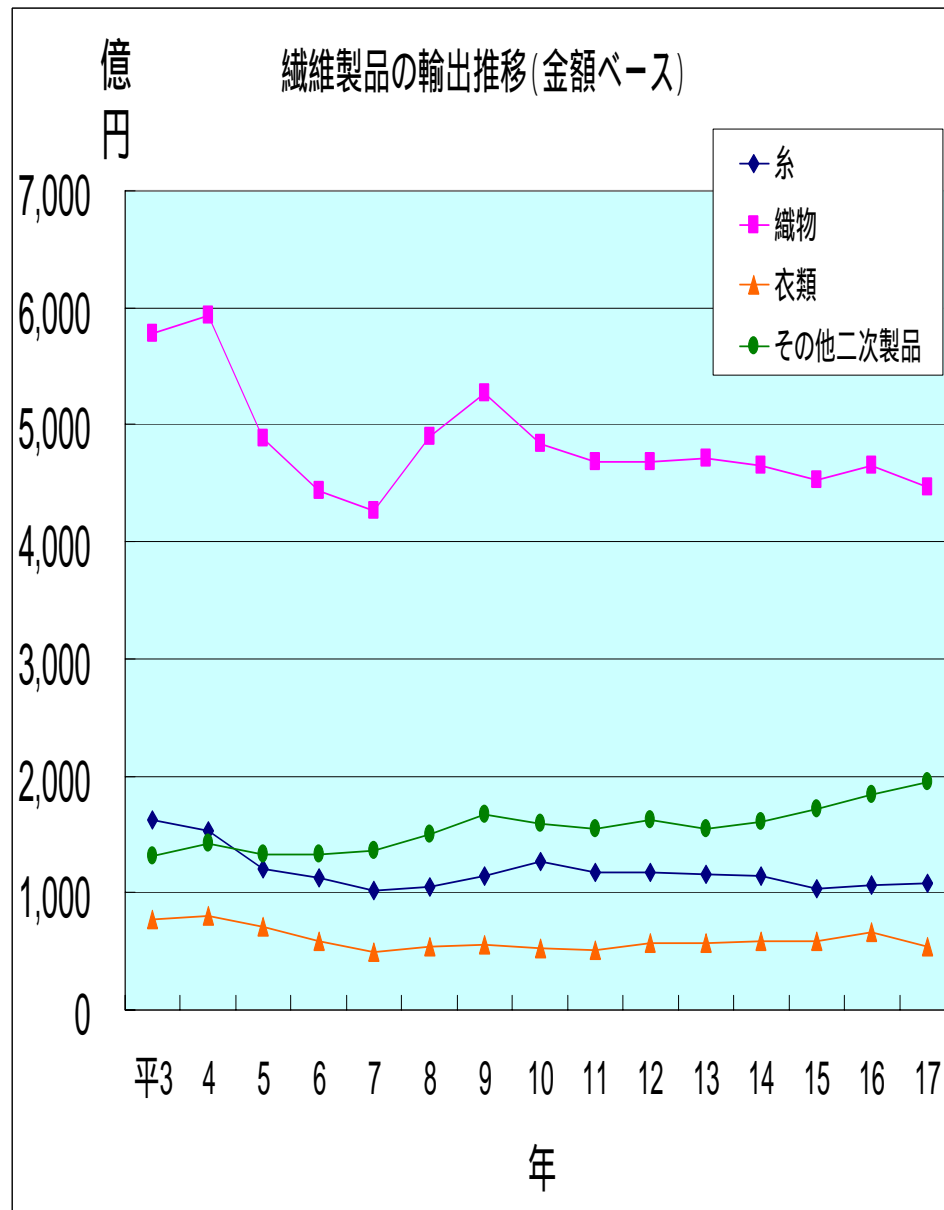
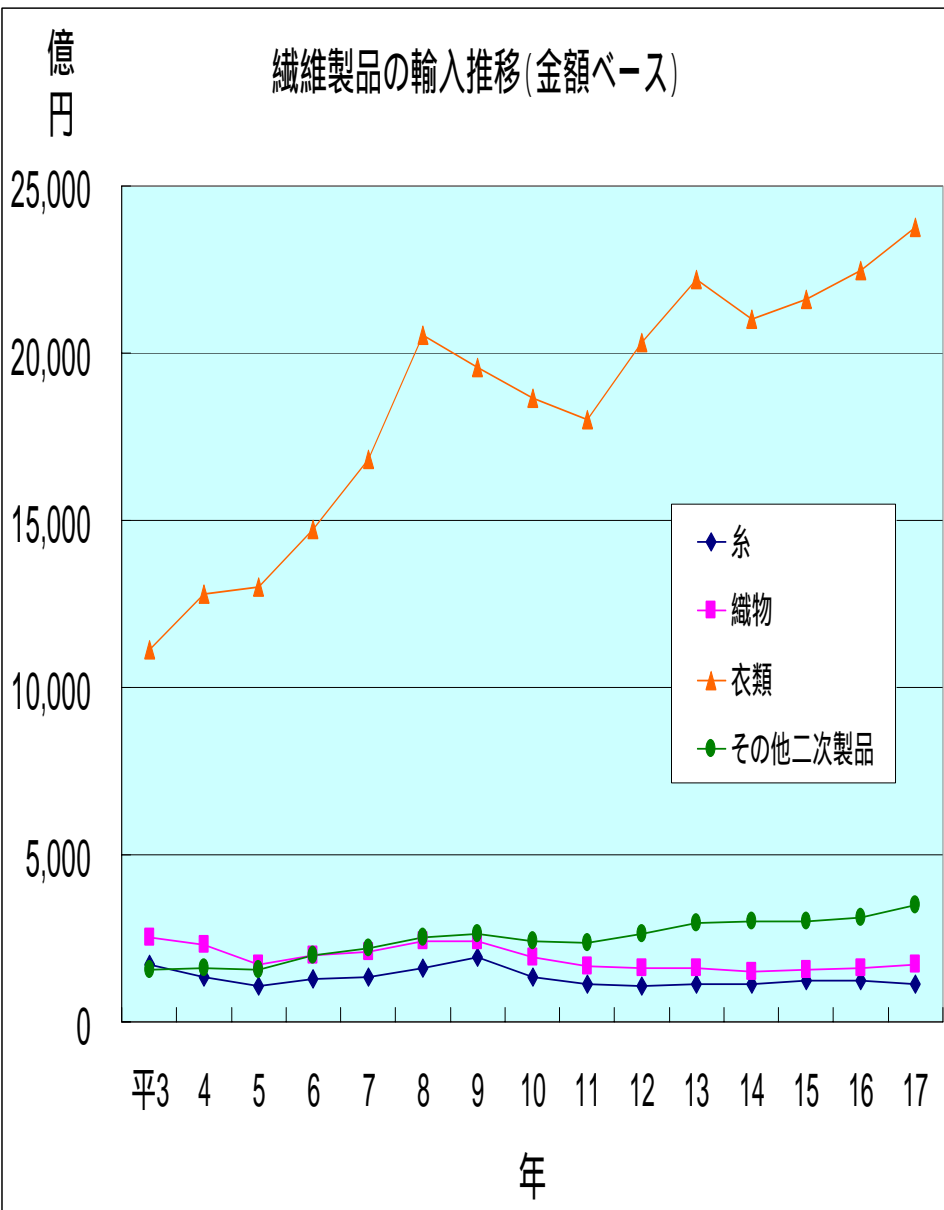
全国の繊維工業の従業者数の推移

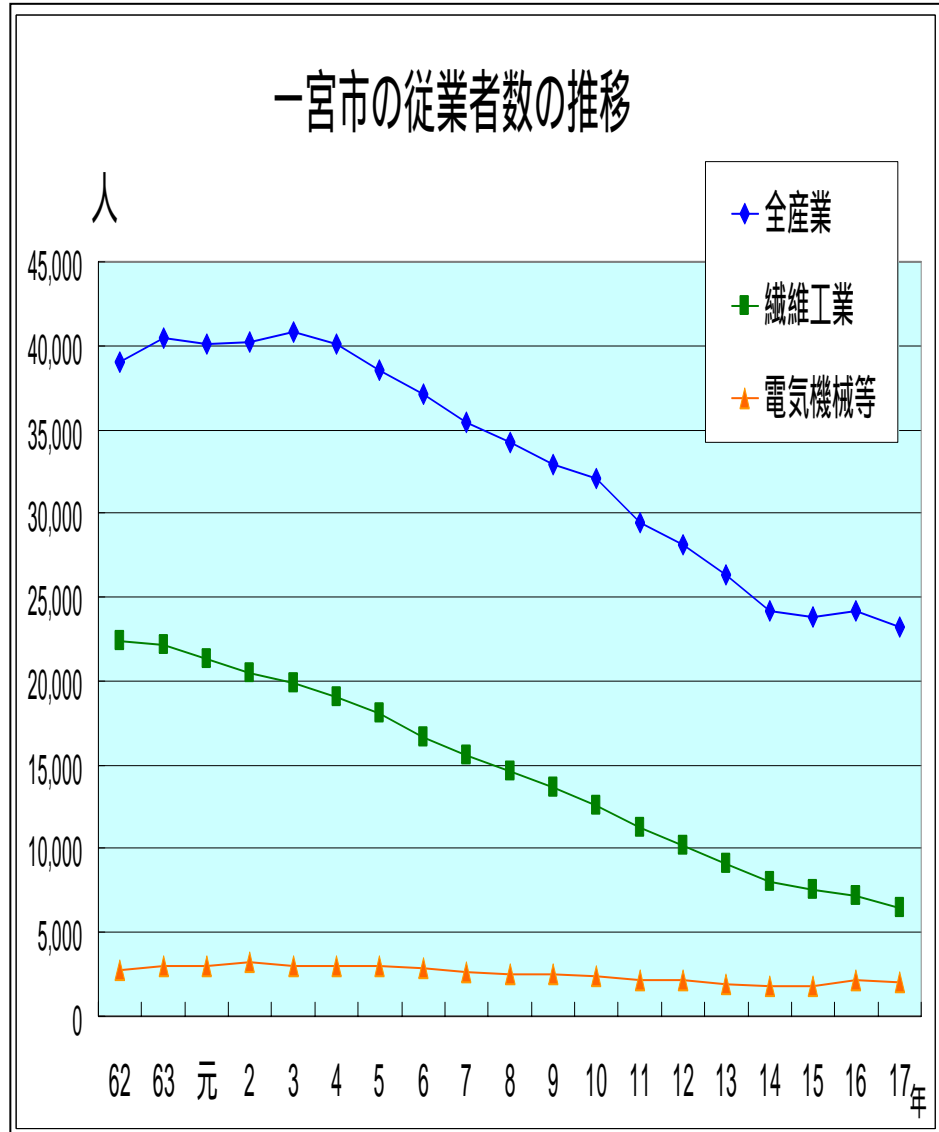
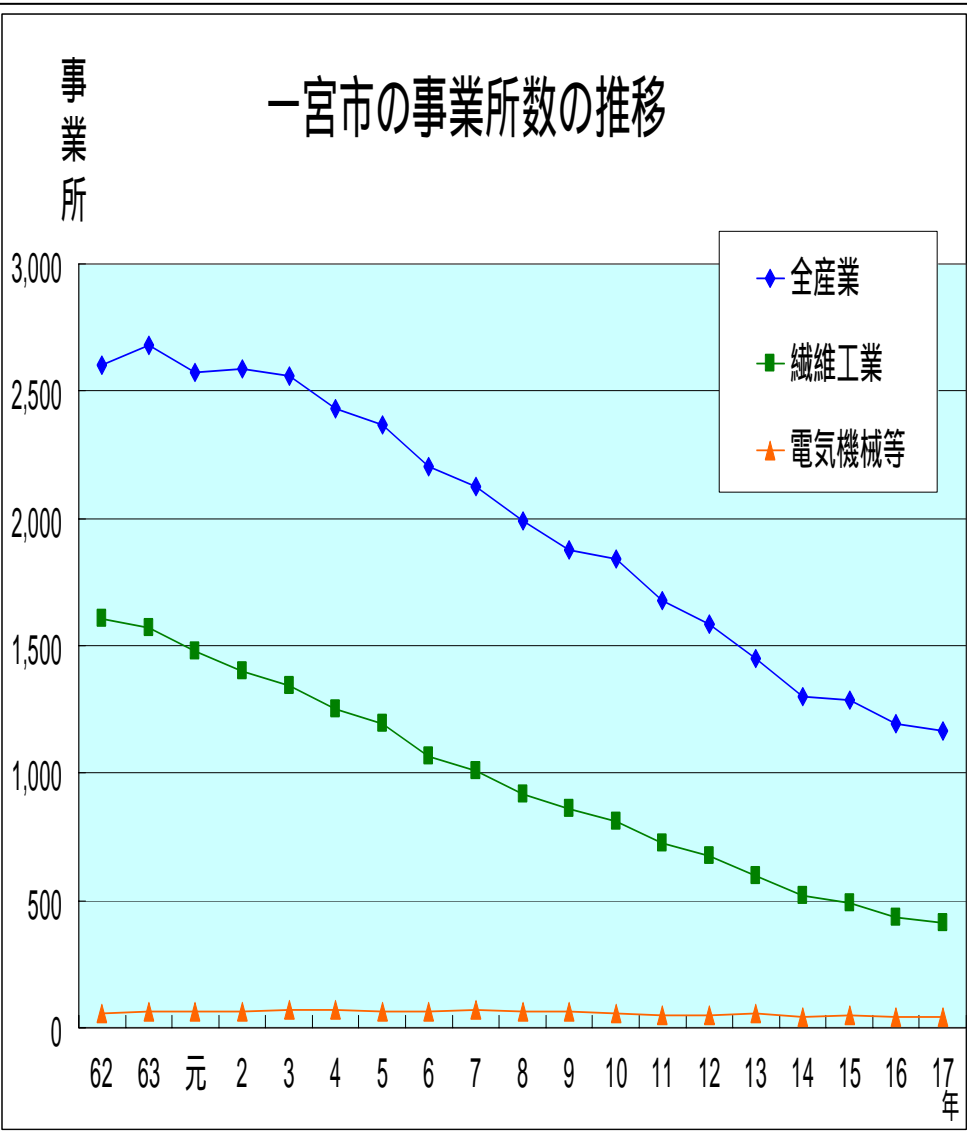


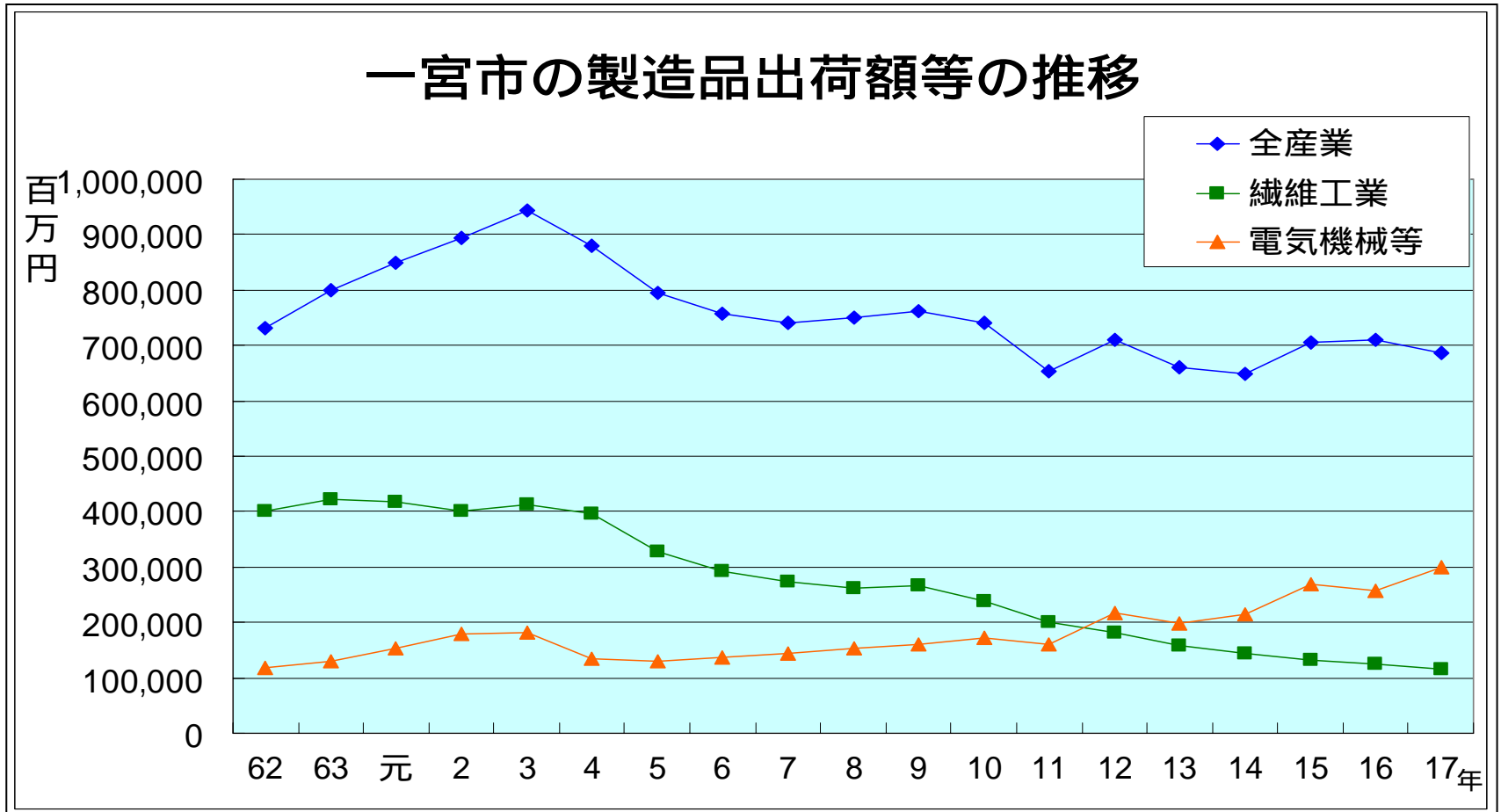


出所: 経済産業省工業統計、あいちの工業

グラフ 2







出所：一宮市の工業

産地縮小の要因

- ・遠因
- ・近因

(2) 地域経済に占める産地の重要性

表1

一宮市の全工業に占める繊維工業<4人以上の事業所>

(単位)	(事業所)	(%)	(人)	(%)	(百万円)	(%)
年	事業所数	構成比	従業者数	構成比	製造品出荷額等	構成比
昭和61	1,631	61.5	22,360	57.3	396,394	52.7
62	1,610	61.9	22,412	57.4	400,588	54.7
63	1,573	58.7	22,139	54.8	421,238	52.7
平成元	1,480	57.5	21,355	53.3	416,321	49.1
2	1,404	54.3	20,478	50.8	399,857	44.8
3	1,347	52.7	19,812	48.5	411,902	43.6
4	1,254	51.6	19,010	47.4	396,741	45.2
5	1,193	50.5	18,017	46.7	328,416	41.4
6	1,069	48.5	16,665	45.0	291,280	38.4
7	1,011	47.6	15,532	43.9	272,764	36.8
8	917	46.1	14,549	42.5	260,668	34.8
9	860	45.7	13,696	41.6	267,572	35.2
10	808	43.9	12,517	39.1	238,426	32.2
11	727	43.3	11,211	38.1	200,918	30.8
12	675	42.5	10,220	36.3	181,539	25.5
13	598	41.3	9,086	34.5	159,180	24.1
14	519	39.9	8,034	33.2	144,113	22.2
15	491	38.1	7,488	31.5	132,225	18.8
16	431	36.1	7,170	29.6	124,203	17.5
17	410	35.1	6,473	27.9	115,554	16.8

製造出荷額等のピーク時(昭和63年)との比較

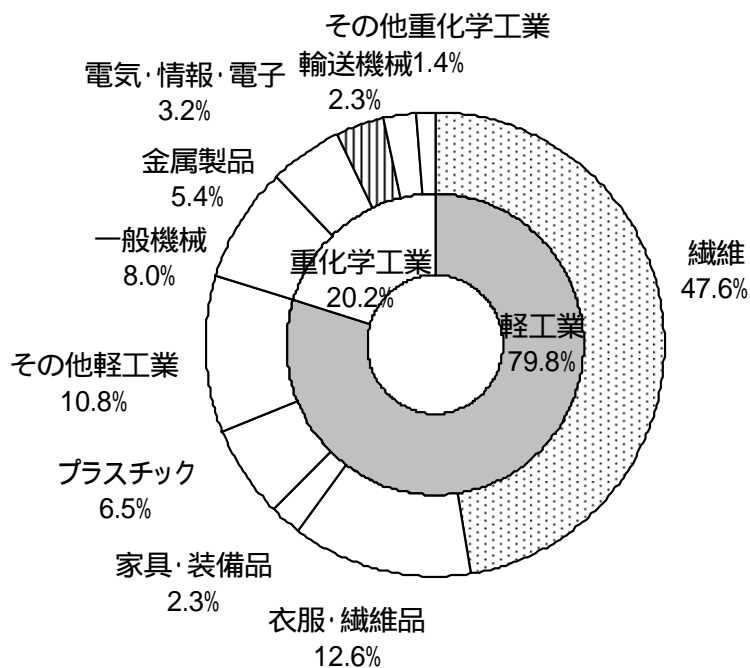
	昭和63年(A)	平成17年(B)	(B)/(A)
事業所数	1,573事業所	410事業所	26.06%
従業員数	22,139人	6,473人	29.25%
製造品出荷額等	421,238百万円	115,554百万円	27.43%

出所：一宮市の工業

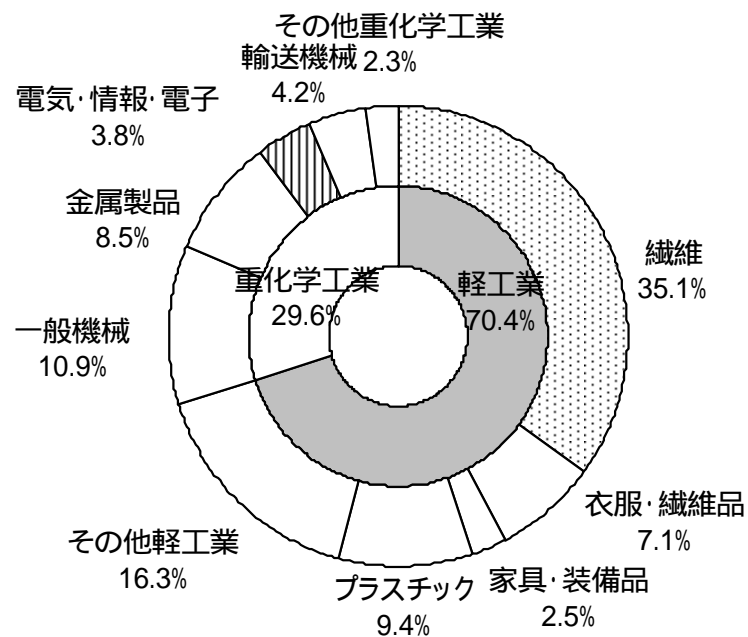
16年以前は「あいちの工業」の数値を使用して2市1町(旧一宮市、旧尾西市、旧木曾川町)の数値を合算したものです。(以下グラフも同様。)

一宮市事業所数の業種別構成

平成7年



平成17年

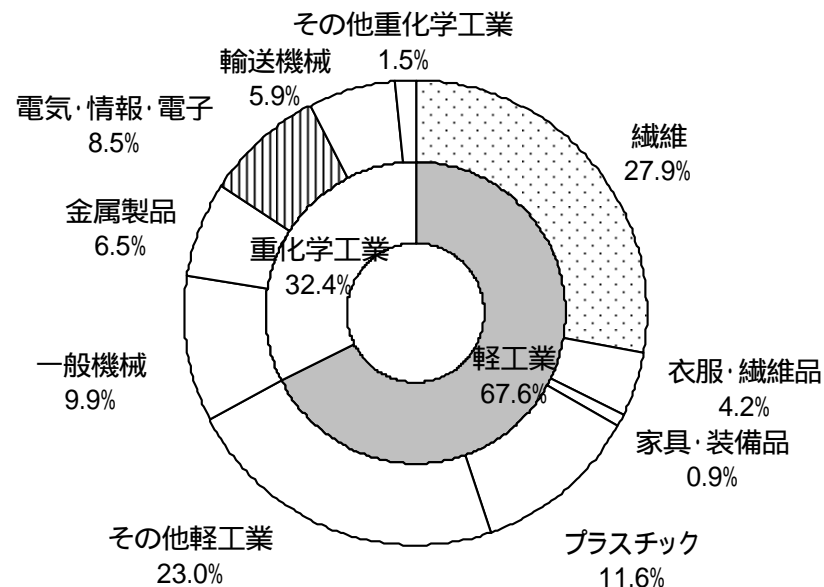
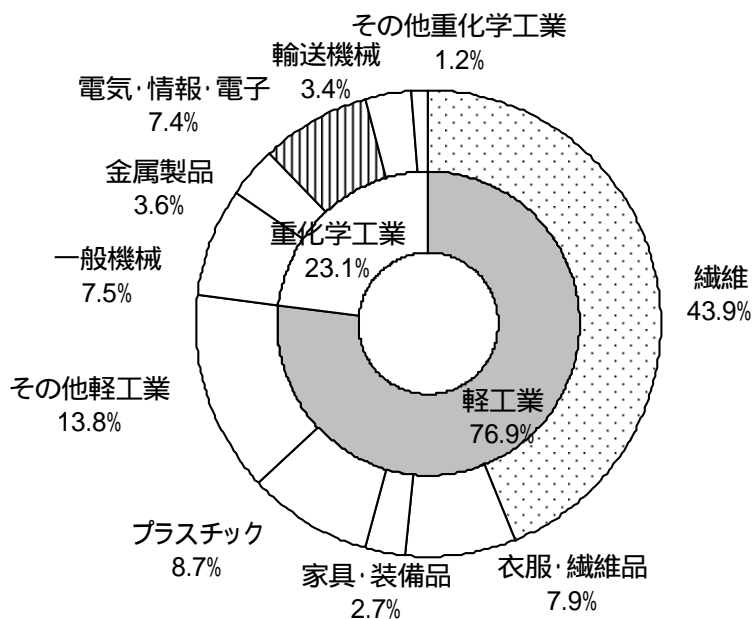


出所：一宮市の工業

一宮市従業員数の業種別構成

平成7年

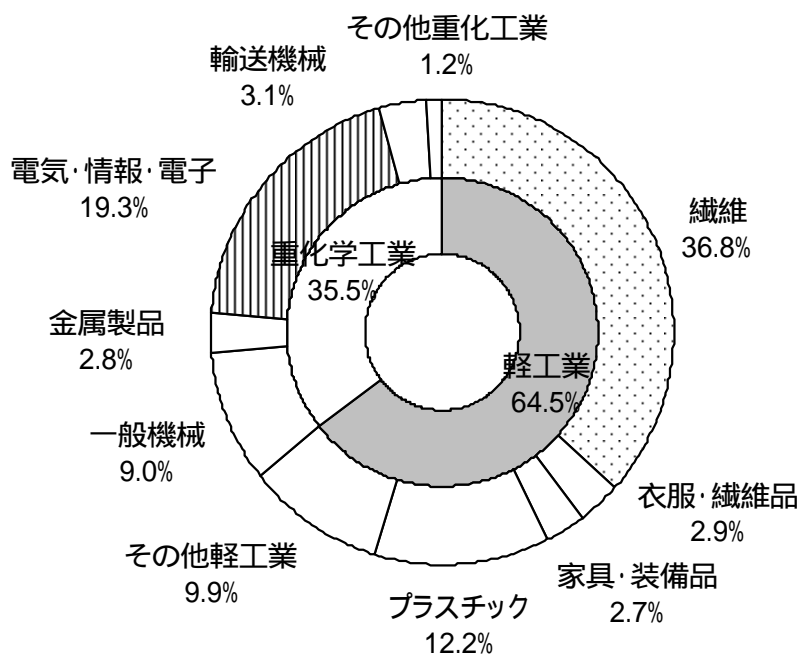
平成17年



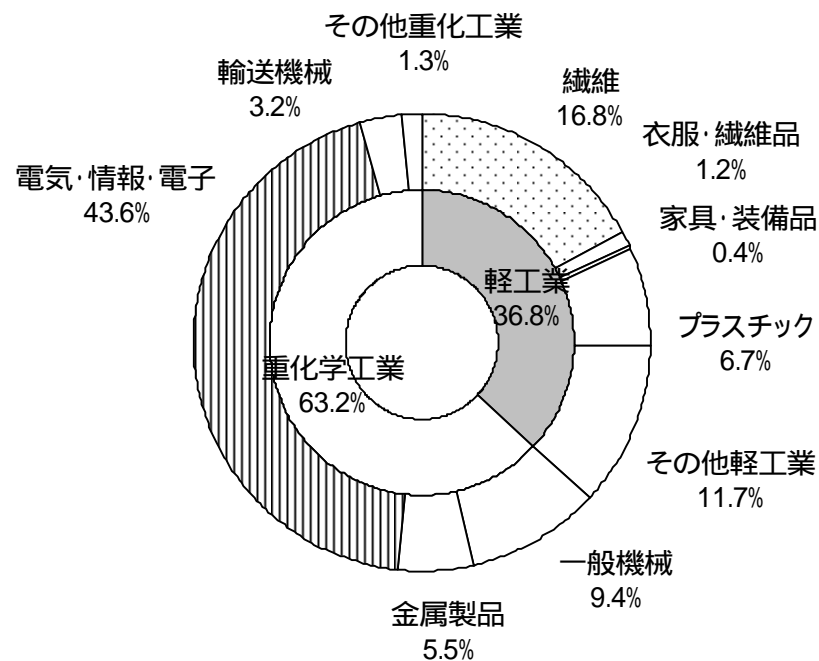
出所：一宮市の工業

一宮市製造出荷額等の業種別構成

平成7年



平成17年



出所：一宮市の工業

2.産地における新たな展開を模索する動き

尾州ルネッサンス(FDC事業改革=ビジネスに直結した事業展開、H14年度)

～産地ブランドJB(ジョイント・尾州)の戦略～

『提案型企業への脱皮』

- ・確かな最新のファッショントレンド情報に基づく織物づくり
- ・アパレル企業に提案できる、売れる人づくり (資料5 新聞記事参照)
- ・売るためのプロモーション (資料6 - 1、6 - 2、6 - 3 新聞記事参照)

若手経営者のモノづくり集団『尾州房』 (資料7 新聞記事参照)

～企業同志の協働～

- ・各同業組合青年部の勉強会から、やる気のある経営者が集まって組織
- ・川中の繊維製造者支援『自立事業』に採択

3.今後の課題と展開

(1)新商品開発の継続

環境素材(非石油由来素材)の開発

- ・環境にやさしい、化学染料を用いない、癒しを意識した織物
- ・マネのしがたいオンリーワン商品の開発を目指す
- ・研究開発に国の支援を

(2)人材の誘致と育成

中核人材のスキルアップ

- ・FDC提案事業が『産学連携製造業中核人材育成事業』に採択
- ・産地に伝承された織物づくりの匠の技を次世代へ

若い人材の確保

- ・JBブランドとして高級素材を提供し続けるためには感性あふれる若い人材確保が大切
- ・若い人材確保に国の支援を

(3)国に期待する支援

上記に加え、

産地産業の設備更新に、公的資金による支援を